

助ける人もいるし、やりがいがおさる感じやすい

し

語り手 西 嵩帥（高校八期生 消防士） 聞き手 松原幸輝

＊

自己紹介

―立守入ったのっていつからですか。

高校から。

―なんで立守入ろうと思ったんですか？

僕の姉が一個上で立守入って、高校から。よかったでーって聞いたから、それで入った感じ。

―なんでバレーボール部に入ったんですか？

元々小学校からずっとやってて、中学校になって、ほんまは俺高校でハンドボール部かアメリカンフットボール部に入りたかったんやけど、なかば強制的にバレー部に入れられた。

―その時はまだ英章先生いなかったんですね？

あー田中英先生？ うん。おらんかった。そんなとき、角原顧問で。女バレは樋口先生やったかな。

―高校の時に、なんか悩みとか、なんか迷いとかありましたか？

いや、最初はほんまはスポ健に行きたくて。ただ、壊滅的に数学ができひんくて。数学赤点とりまくってんか。俺ひたすら補習させられて、でも、スポ健は理系やし、どうしたことかなと思って、結局スポ健には行けへんかったんやけど。そこやな、勉強やな。

―得意な教科は？

得意というか、好きやったんは、英語が好きやって。そうそう、英語が好きやったぐらいは、俺体育は好きやったけど、そういうのが好きやから、悩みで言うとな、その理系の勉強が壊滅的すぎてやばかったぐらいやな。で産業社会学部入った。スポーツ社会専攻。

＊

大変だけど人のためになる仕事

―消防士を目指し始めたのも高校からですか？

それは俺の幼馴染が先に高校卒業した段階でなりよって。色々話聞いてて、元々俺もなりたいたいなと思っててその友達が入って、じゃあ俺もなろうって大学生になるときになつてた。

―憧れとかありましたか。小さい頃消防士とかに。

じっとしてるのが苦手なタイプだから、会社員とかでこう、パソコンポチポチよりかは、そういう体使うっていう仕事の方が自分には向いてるやろうなとは思って。

―その消防士になろうっていうのに、どんな勉強とか訓練したことありますか。

訓練はしてないけど、勉強は姉ちゃんも公務員で、市役所の職員。姉ちゃんは大学で公務員講座っていうのでやってんのやけど、俺は部活してたからできひんくて。公務員講座は夜にあるんやけど夜は練習があったから無理やし、ひたすら自分で参考書買ってきて、ひたすらやったかな。

―どんな試験があるんですか？

試験はある。体力試験と面接とがある。

―しんどかったですか。

うん。しんどかった。だってバイトもしてたし。で、部活もしてた

し、勉強もせなあかんし。結局、公務員って内定決まんのがけっこう遅い。早い人やつたらもう春先に内定で、四回生の五月とかで就活終わってる人もいるけど。特に俺が受けた大津消防は一発目の試験が九月で、二次試験が十月、十一月が最終試験。年末前ぐらいに内定か内定じやないかわかんねん。だから、みんなが終わってる中、俺はひたすら勉強してたわ。

—合格したらすぐ現場に行くことってあるんですか？

配属は卒業してからの四月やし。四月から半年間消防学校入って、そうやね、寮に入って、基本的な訓練を半年間やって、ま、十月から各消防に配属になってみたいな感じやね。それが地獄やった。めちやくちやしんどい、それが。

—毎朝早く起こされてたんですか。

六時半にチャイムがなって、そこから外並んでランニングとか体操して、掃除して、ご飯食べて、訓練で夕方までして、そこから自由時間って感じを月曜日から金曜日までして、で、金曜日の夜に家帰ってきて、また月曜の朝に行って、また一週間寮で過ごして金曜帰ってくるってのを、半年間ずっとやってた。

—どんな訓練したかったてありますか。

滋賀県の消防学校は、ひたすら超根性論の昭和な世界やから、めっちゃ走んねん。全国のどこの消防見ても、ダントツで走るらしくて、全国で五本の指に入るぐらいしんどいっていわれてんねん。毎日から二十キロとか走って、勉強もやけど、訓練をして、最後にそこから、みんな二十キロ、三十キロとか走る。で、たまに、フル馬拉ソンとか、四十二・一九五キロのフル馬拉ソンとかやったら、夏は水泳があるし、めちやくちや辛い。二度とやりたくないって思うぐらいしんどい。

—寮での自由時間って、どんなことをするんですか？

自由時間は、例えば、その日の訓練で習ったことを、班があるやんか、一班、二班、三班みたいな感じで。で、その班員とその日のやったこと復習したり、例えば、明日はこの訓練するし、ちよっと予習でやつとこみたいなやつたり、あとは、みんなでちよっと軽く走ったり、筋トレしたり、なんかそんな感じやな。

—自由時間というか……。

自由時間という名の（訓練）……って感じ。はははは。

—寮生活が終わってから初めて現場とか行つたのっていつですか。

十月かな。

—もう、すぐって感じですか？

うん。いっちゃん最初は堅田っていう琵琶湖大橋の近くにある消防署。その消防隊に二年いたんやけど。最初はなに行つたんやつたかな。普通の救急の現場やつたかな。心臓止まってる人の救急に行つたな。

—経験したことないような。

せやな、普通の人が見いひん現場に行くしな、人が亡くなってんのか。みんな多分普通の人やつたら身内のお葬式とかでしか無理やけど、毎日のように見るし。火事もあるし。

—記憶に残ってる出来事ってありますか。

入りたての頃で言ったら、俺誕生日が四月一日やねんけど、誕生日の日に見事に火事引いて、大津市を縦に走ってるおっきいメイン道路があつて、その道路のそばの木がめっちゃ燃えて。道路一面火の海やつてんか。そこに一人で行かされて。

—一人で？

そう。隊が少なかったから。一人でホース持って火消したり。最近で言ったら、去年の石川で地震あったんやんか。石川の地震とその後石川に豪雨があったやんか。その二回とも緊急消防援助隊っていう、緊援助隊って、それに行ってたんか。

―悲惨ですね。結構。

もうえぐかった。もう家ぐちゃぐちゃやしな。地震の時は、ほんま、潰れてる家で、もうみんなで隊分かれて回って、逃げ遅れいーひんか見て、いはったら亡くなってる。もうほぼ亡くなってる。亡くなってるのを確認してから取り出してきてあげてっていうのをひたすら一日中やんねん。寝泊まりも、冬やって雪めっちゃ降ってる中で野営みたいなテント張ってやってんけど。で、だから、地震で水道も止まってる、電気も止まってるから、トイレも、簡易トイレしかできないし、雪降ってるけど暖房ないしって中で。

―何日間いたんですか？

両方とも四日間。

―全国から来た感じですか。

そうそうそうそう。緊援助隊というのは例えば、どこどこ県であったら、一発目はまずこの隊が行って応援要請があったら、また別の隊が行くみたいな。滋賀、京都、愛知とか静岡、岐阜とかいろんな県の消防で決められてんねん。地震があったら、この署の救急隊と、ここの署の救助隊とか行くよみたいなの、決まってる、ま、全国の救急隊、消防隊、救助隊のみんなが行くねん。めっちゃしんどい。

―緊急招集されて？

そうそう、もうなんか、一日目の人らは、勤務してる、お仕事してる時に、それが、今地震があったってなって、あれが、震度六強か、もう

その時点で、地震があった時点で、もう強制的に行くって決まってそれで行かほって。

―もし休みの日でも大地震が起きたら招集されるんですか？

そうそうそう、この間も休みの日寝てて、ちやうど夜中の二時に、二時か三時から大雨警報とか洪水警報とか出たら、基本的にそういう土砂災害とかの対応する部隊を各部署作らなあかんねんか、決まりとして。で、それは休みの人を呼び出して作んねんか。夜中の三時に電話かかってきて、爆睡してたのに。電話きて、今から来れるかって言われて、夜中の三時に起きて行つて。

―気抜けないですね。ずっと

そや、抜けへん。ずーとや。

―消防士やってきて一番しんどかったことってなんですか。

圧倒的にその最初の消防学校かもしれん。

―卒業してからまだちよつとマシですか。

一応現場の方がやりがいもあるし、消防やってんなって感じはするけど、初任は、消防学校はひたすら訓練って感じで、ただただしんどかったな。

―消防士やってきて、やりがいを感じたりするのは、やっぱりそういうとき。

せやな。現場出て、ちゃんとできるように、こう毎日訓練してるみたいな感じで。やっぱ現場出てなんぼやしな。

―消防士やってきて、楽しいことってありますか。

楽しいことは人脈が広がるし、今救急となつてると、いろんな他の消防本部も救急としてはる人とも、いろんな研修とかでも会うし、そういうので仲良くなるし、例えば搬送先の病院の先生とか、看護師さんとか

とも仲良くなれるし、人脈は広がる分には楽しい。

―色々連携とかしたりするんですか？

そうそうそう、今で言ったらうちは大津赤十字病院で、大津日赤と大津市民病院の二つドクターカー持つてるし、そういうドクターカー、知ってる先生とか看護師さんが乗ってくれてはると、現場で連携するときもやっぱ連携しやすいし。人脈はな。特に社会人も人脈とかも広い人の方がやっぱ仕事もやりやすいし。

―火事の時と災害の時って対応って違ったりしますか？

せやな火事は、災害って地震とかやろ？

―はい。

せやな火事も火事で大変やけど、特にこの間な、大阪の消防士亡くなってるし。やることは一緒っちゃ一緒なんやけど。

―やっぱ怖いすよね。

うん。ほんまに燃えてる火事はやっぱ怖いで。めっちゃ熱いし。

―消防服って重いすよね。

全部フルで着たら二十キロあるし、それプラス、ホースやらなんやら持つし、もう結局三十キロ四十キロぐらいあんなやろ。それも背負うってなった状態で何時間も、火事とか数分で消えへんしき。何時間も活動するしほんまに大変。

―やばいですね。

めっちゃしんどい。ま、なんせ消防は二十四時間やし、普通の会社員さんと同じように仕事するわけ。九時から五時ぐらいでお昼休憩の時間あって、それで昼その時間に救急とか鳴つてもうたら、行かなあかんし。実質休みが全然ないしな。昨日も弁当食べようと思って弁当温めてる途端になつてさ。そこからずつと行つて。で、結局その昼ご飯食べ

たん四時前とかになつたし。

―三百六十五日二十四時間ずつと仕事。

休みないから、会社みたいなお盆なんて休みまずない。年末年始も関係なしに来るしな。

―しんどいですね。

しんどい。なんかもうなんか俺この仕事してると曜日感覚とかわからなくなつて。

*

充実した学校生活

―劇やりました？ 高三で。

やった。高一が映画で、高二が教室で劇、高三は市民ホールで劇か。

―三年間ずつと劇ですか。

まあそうやな。俺、でもあの、総団長、団長、そんなんつて今もあんの？

―体育祭のですか？ 団長はあります。

俺あの団長と総団長と両方やってたから、あんな文化祭のそっちのことなんまできてへんねん。団長は団長で後夜祭の準備とかいろんなやらあかんこと多くて。後夜祭のMCを団長がやらあかんくて。

―やったんですか？

やった、やった。でも、その高校の団長と中学校の団長と一緒にやって、高校の総団長がメインをやる。そっちで色々忙しかったから、あんな文化祭の方、手伝えてないねん。

―体育祭のこと覚えてますか？

まあ、そやな。今は団アピールあるの？

―あります。あのダンスのやつ。

—そうそう。みんなでやるやつ。懐かしい。

—何踊ったか覚えてますか？

—全然覚えてへん。はははは。

—振り付けとかは団長とかが決めてるんじゃないんですか？

—いや、俺はバトン部の子がおったし、そいつに全任せてた。曲だけ俺が選んで。後は頼んだって。

—学校生活でどんな先生が印象に残ってますか。

—もう別の学校で働いてるんやけど、三年の時の担任が溝口先生っていう。若い男の先生で今でも繋がりのある。その先生の印象、若い先生やから、みんなとも歳近いし。壁がなくて、いろんなこと相談できたし。部活に関しては、ほんま樋口先生にめっちゃ世話になったから。

—高校とかの経験活かして仕事で活かしたことってあるんですか。

—バレーのチームスポーツをしてたし、コミュニケーション能力とかそういうのを養われていったし、立守の授業とかでも、結構こう、一人でするといよりグループでが多かったし。そういうことに慣れてるからこそ消防も基本的には隊でもコミュニケーション能力がないと、自分が何したいかも伝えなアカんし、その人が何したいかも考えながらこっちも活動せなアカんし。コミュニケーション能力が養われたから、これまで活かしていきってるのかなと。

—日本人だけじゃなくて、外国の人とか相手にすることもありますか？

—全然ある。英語好きやって、語学留学とか色々行けるやんか。立守

は。そういうので外国人の救急司令とかあったら、ほぼ俺が対応してんねん。ある程度は英語話せるし。

—留学行ったんですか？

—シドニー。

—そのシドニーでの思い出がありますか？

俺のホストファミリーはさ、中国人系の金持ちやったから、家めっちゃすごかった。ただベジタリアンの人やって。平日魚と野菜しか出てこへん。家辛くて。でも土日はいとこが来て、みんなで遊ぶねんか。毎週海に行くんやけど、いとことサーフィンしたり。いとこはめっちゃお肉大好き子やってさ、土日はもういつもほんまサーフィンして、バーベキューして、そんな時だけ肉食える。サイコー。ワハハハ。学校もオーストラリアの人来たら、日本人大好きな人が多くて。めっちゃ喋ってくれるし、友達も増えたし。楽しかった。楽しく勉強できたし。

—日本との違いって感じますか。

—日本は結構シャイな子多いけど、外国人ってあんま人見知りせえへんなと思うぐらいほんまめっちゃ喋りかけはるし。俺も元々人見知りせえへんけどそれ以上にすごいなって思うぐらい喋らはんねんな。まあすごい大事やけどな、そういう積極性は。積極的にコミュニケーション取るうみたいなその姿勢はすごいな。

—ホームステイって大変じゃないですか？

—最初はもうなんか早よ帰りたいすぎて、ずっと部屋にこもって、YouTube見てて、ははは。後半ぐらい、途中ぐらいから、バーベキューとか行って喋るようになって、楽しめた感じやな。

—自分の思い

—消防士として誇りに思ってるところはなんですか。

—自分がちゃんと勉強して、ちゃんと知識があれば、困ってる人助けれるし、助けた時に「ありがとうございました」って言われるのがやっぱり一番やりがいを感じるし、そういうところかな。だって、やっぱそんな

んとか会社とかで働いててもさ、多分こう、業績的なものでさパツとせーへんやん。役に立ってんのかな分らんけど、やっぱそういう仕事は直接的になんかやったなって感じがするやんか。助ける人もいるし、やりがいがおさら感じやすいし。いい仕事やなと思う。

―本物の感謝がありますもんね。

目に見えてわかるし、そういうとこがやっぱやりがいがある。

―自分が高校生の時に、今の自分になんか一言かけるとしたら、どんなことを言いたいですか？

やりたいことは躊躇せずに、やりたいことは全部やったらって思う。

―やりたいことってどんなありました？

いざという時に遠慮して人に譲っちゃいがちなところもあったから、やりたいならやりたいなって思うんやったら、もうやったらいいんじゃないかなと思う。

―今までの中で、これが一番大事と思う信念とか意識とかありますか？

やるって決めたら、中途半端に辞めずに、百パーセントの力をそこに注いで、やること。実際、救急救命士っていう、例えば点滴したりとか、内に管入れて薬入れたりする車があるんやけど、それ（資格）を取るためには専門学校出ててもいけんねんけど、消防入ってからやったら、そう、選抜試験があつて、それ受かったら半年間東京のそういう学校がある、そこに行くねん。俺はこの救命士になりたくて、二年目の時から受けてきて、で、二年目、三年目、四年目、五年目として、今六年目なんで、今回もその試験があつて、来年の九月から半年間東京の学校行つて救命士の資格取りに行くんやけど、二年目の時から絶対なりたいって思つて、ずっと続けていって、やっと五回目で受かつて、なりたいてって目標持つてずっとそれに向かって努力している。いつかはそうい

ういい結果で出るし、そういうやりきる気持ちっていうか、あと仕事こなすんじゃなくて、なんか目標もつてそう。毎日何かしら、コツコツやつていくことがやっぱ大事なな。

―諦めるともつたいたいですね。

だね。なんだかんだでやろうと思つたら誰でもできるし。時間は人それぞれかかるかもしれないけど、いずれできるやろ。

―立守に入つてよかったってこと教えてください。

せやな。まあ大学受験する人もいるけど、大学受験がないとか、普通の高校生よりかはもう余裕持つていろんなこと勉強できるし、そういう面では部活もやし、勉強もやし。普通の高校だったら受験勉強があるから、早く引退とかするけど、それもないから。ギリギリまで部活できるし、受験もないから。そう、自分の趣味とかにも時間使えるから、いろんなことをできるっていうのはいいことかなと。俺はそれがバレーやつたから。引退してからも、男バレーの方も行ったし田中秀先生に頼まれて女バレーのコーチもしてたし。いろんなことが普通の高校生よりかは縛りなくできるっていうのはええところかなと思う。

―じゃあ、終わりにします。ありがとうございました。

【感想】

私はこの聞き書きで消防士という仕事を身近に感じる事ができた。元旦に発生した能登半島の地震についての話を聞かせてもらいその悲惨さや、レスキューの大変さやそれによって救われる命がたくさんあることがわかった。学校生活では体育祭で団長をされており文化祭の後夜祭



左：語り手 西 嵩帥さん
右：聞き手 松原幸輝

でMCをやられるなど様々なことにチャレンジされているので、私も迷ったらなんでもチャレンジするようにしていきたい。